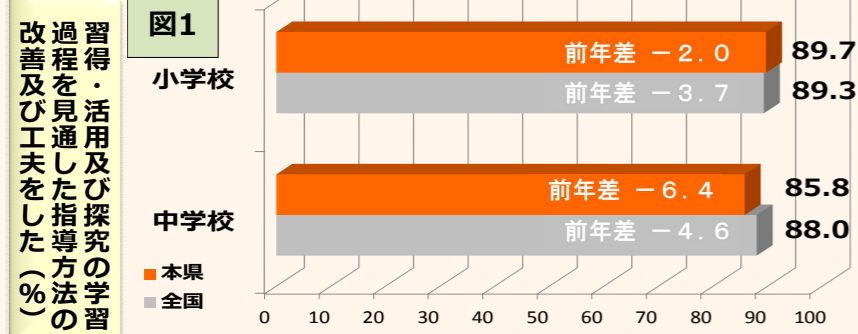


## 授業づくりの状況と対策（学校質問紙調査）

下の図1の結果から、各校において、次のことに留意した授業改善に引き続き、取り組む必要があります。

- ・習得、活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫
- ・各教科等で身に付けたことを様々な課題解決に生かすことができるような機会を設ける

小・中学校ともに全国平均と同程度ですが、共に前年度よりも割合が低くなっています。

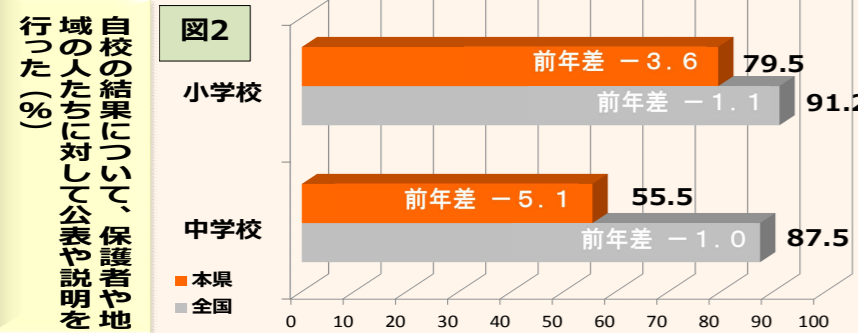


## 結果の活用状況と対策（学校質問紙調査）

下の図2の結果から、各校においては全国学力・学習状況調査の結果について、次のことに留意した取組が必要です。

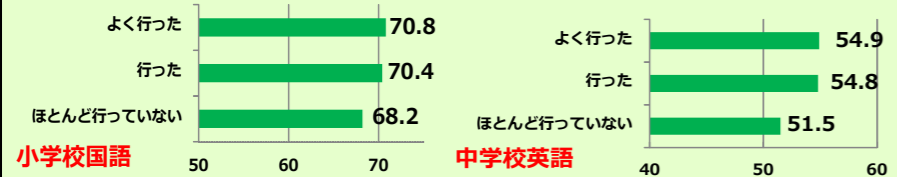
- ・自校の分析結果について調査対象学年、教科だけではなく学校全体で教育活動を改善するために活用すること
- ・自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行うこと（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明含む）

小・中学校ともに、自校の結果の公表や説明を行った割合が、全国平均を大きく下回っています。



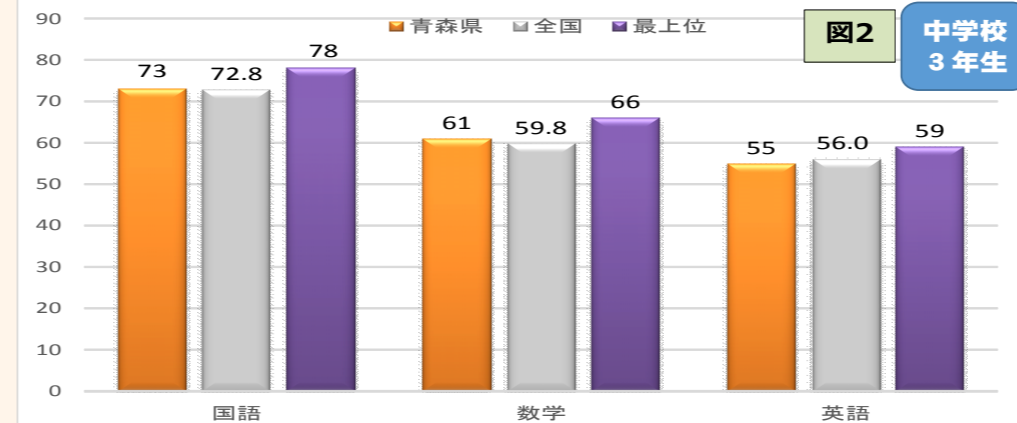
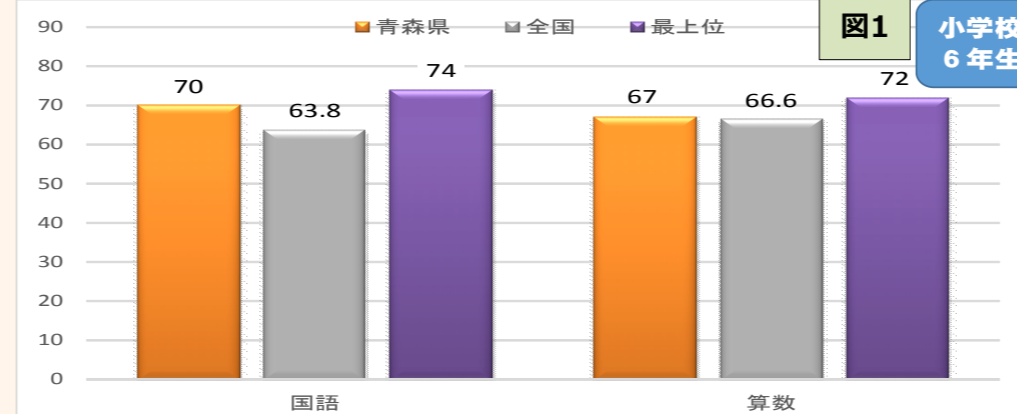
参考：質問「自校の結果を保護者や地域の人たちに公表や説明をしたか」への小学校の回答と平均正答率（青森県）%  
質問「自校の結果を学校全体で教育活動を改善するために活用したか」への中学校の回答と平均正答率（青森県）%

小・中学校ともに、「公表・説明を行った」「活用した」学校の平均正答率は「ほとんど行っていない」学校よりも高い結果となっています。（下図）



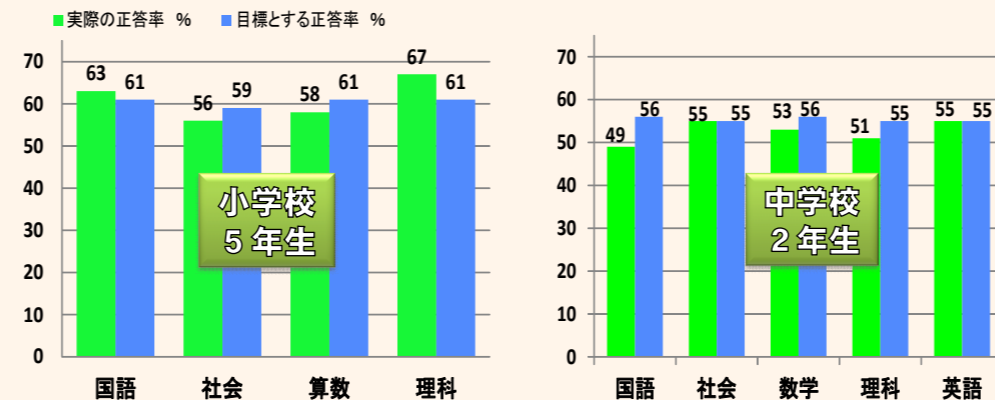
## 学力の状況と対策（教科に関する調査）

本県の平均正答率を全国や最上位県と比較すると、小・中学校ともに、全ての教科で平均正答率が全国平均を上回るか同程度であり、概ね良好な状況にあります。また、学校質問紙、児童生徒質問紙の回答状況が改善されるような取組を進めることにより、児童生徒の確かな学力の育成がさらに進むものと考えられます。



## 学力の状況（H30県学習状況調査から）

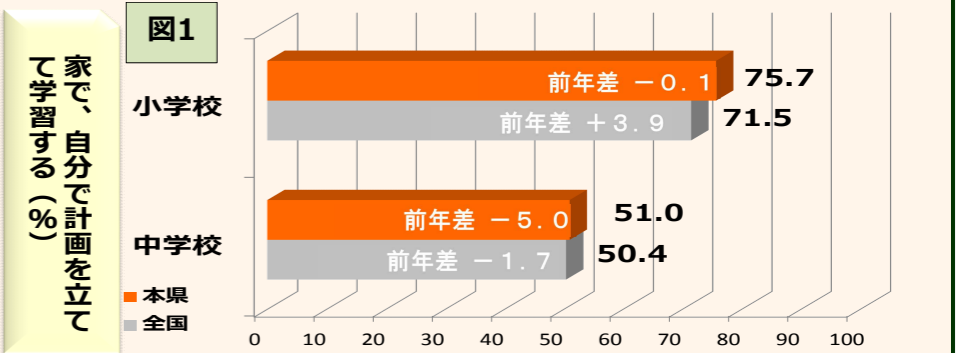
小学校では算数など、中学校では、国語や数学などにおいて、目標とされた正答率に届きませんでした。そのため、自校の分析を踏まえて実施報告書を活用した授業改善を求めておりました。（下図）



## 学習習慣の状況と対策（児童生徒質問紙調査）

下の図1の結果から、今後も児童・生徒が個々の習熟の状況に応じて家庭学習を計画的に行うことができるよう、指導を継続することが大切です。

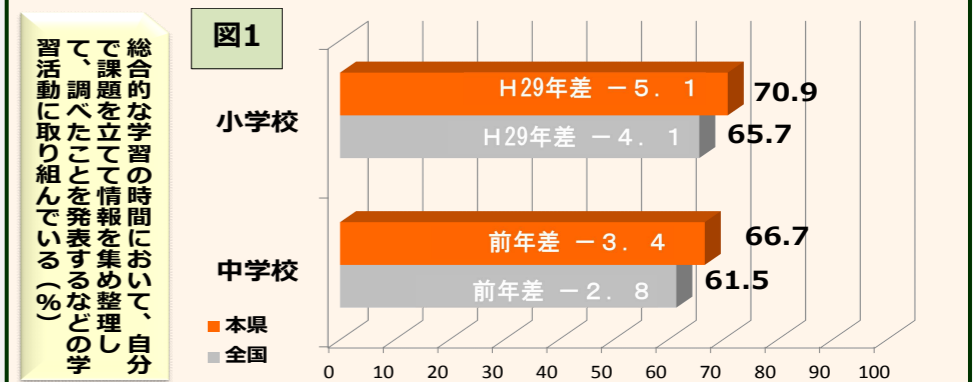
本県の児童・生徒は家で自分で計画を立てて勉強している割合が全国と比べ、同程度か高い傾向にあります。



## 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業への取組状況と対策（児童生徒質問紙調査）

下の図1の結果から、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を図り、各教科の見方・考え方を身に付けさせ、児童・生徒の資質・能力が高まるよう、指導を継続していくことが大切です。

本県の児童・生徒は、総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる割合が全国と比べて高い傾向にあります。



参考：質問「総合的な学習の時間において、自ら課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」への児童生徒の回答と平均正答率（青森県）%

小・中学校ともに、「総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」児童生徒の平均正答率は「どちらかといえば、当てはまらない」児童生徒よりも高い結果となっています。（下図）

